

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.238**  
**一人ひとりができることを行動に移す**  
ボランティア団体 女性を元気にする会 代表 ゴージャス理枝
- 6 **地域リレーションシップ情報 236**  
**沖縄総合事務局経済産業部の取組について**  
**スタートアップ支援について**
- 8 **おきぎんマーケティングレポート**  
**第96回おきぎん企業動向調査**  
**(2024年4～6月期) 調査結果**
- 20 **けいざい風水**
- 22 **県内景況・確報**  
2024年5月の県内景況
- 30 **国内景気動向**
- 32 **沖縄マーケティング情報**
  - ①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
  - ②世界の中の沖縄(年次)
  - ③グラフでみる沖縄経済
  - ④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 52 **経済社会のできごと** (沖縄、国内・海外)  
2024年6月



表紙写真/花笠

## 一人ひとりができることを行動に移す

ボランティア団体

♡ 女性を元気にする会

代表 ゴージャス理枝



県内のコンピュータ会社に11年間勤め、取締役を経て退職後2008年に那覇市内に「ビューティーサロンゴージャス」を開業。その傍ら、2015年からは、生活環境の影響で日常生活もままならない女性たちの自立・再出発、負の連鎖を断ち切り、笑顔を増やしたいという思いからボランティア団体「女性を元気にする会」を立ち上げた、ゴージャス理枝こと赤嶺 理枝 代表に、活動のきっかけや、その取り組み、新たな目標などについてお話を伺いました。

### 女性を支援するきっかけは

オーストラリア留学時、個性的でおしゃれでカッコいい女性たちをたくさん見ました。企業のトップに立つ堂々とした女性。大きなピアスに高いヒールでイキキと街を歩く女性。留学先から戻った時、日本では外見で判断される事が多く、特に沖縄では人と違った個性的な女性は白い目で見られる事の多さに強く疑問を感じました。

コンピュータ会社に就職し、日々の業務をこなしていくうち、能力やバイタリティーに関係なく、結婚や出産を機に辞めていく女性たち。今では考えられませんが、産休や育休が無かった時代、家庭を持つ女性が働きやすい社会ではありませんでした。

そうした状況を変えるため、取締役まで昇進して女性中心の会社を作り、改革をし尽くしました。退職後は、働き盛りの女性が笑顔で輝くお手伝いをしたいと思い、2008年にエステサロンを始めました。サロンに通う女性と接していくうちに、自分を磨く余裕のない女性を笑顔にしたいという思いが強くなってきました。



▲那覇市住宅街の隠れ家的エステサロン「ビューティーサロンゴージャス」

### 支援活動のトータルビューティーフェアについて教えてください

私自身、シングルマザーで借金や、子育てなどで問題を抱え、色々とした苦しい経験もしてきました。思い返せば何かしら支援の情報を知っていたら少し違っていただけたかもしれない。と思うこともありました。

行政や専門的支援が必要であるにも関わらず、SOSの出し方を知らない、誰にも気づかれない弱い立場の女性がいます。そういったひとりで悩んでいる女性を支援したい。しかし、そういった女性はエステなど自分を磨く余裕などない場合が殆ど。

そこで、私が動いてできることをやってみようと思い、2015年にボランティア団体「女性を元気にする会」を立ち上げて、団体の活動に賛同してくれる仲間に協力を依頼。プロの美容施術がワンコインで受けられ、自然と女性が笑

顔になるイベント。それが「トータルビューティーフェア」です。

行政機関と連携する事ができたこのイベントの本当の狙いは、ひとりで悩む女性を各専門の支援機関の相談ブースへ誘導し、生活相談や専門的な支援につなげることです。

今年で21回目を迎えますが、回数を重ねるごとに来場者数が増え、コロナ前のイベントでは来場者が4,000人近くありました。最初は不安でしたが行動して良かったと実感しています。

▲2023年度開催のトータルビューティー&生活支援等相談会

### その他の支援活動について教えてください

母子生活支援施設、児童養護施設に出向き、美容施術を無償で提供する活動も始まりました。色々な問題や不安を抱え、施設で過ごさざるを得ない女性やその家族が少しでも前向きになるためには気分転換も大切です。外見が変わると表情も気分も変わり、自然と行動も変わるからです。

また、この「ゴージャス理枝」というインパクトのある名前についてですが、ひとりで悩む

女性やその周りの人たちに覚えておいて欲しいという思いから使用しています。この名前のおかげで、2019年頃から認知されてSOSが届くようになり、最初は、わずかな手土産をもって訪問し、話を聞いて支援機関につなげる形でしたが、そもそも明日を凌ぐ食料も無い家庭が殆どであることに気づきました。そこで、行政機関や食料支援団体とつながって訪問の傍ら食料配布を行うこととなりました。

また、「支援したい」という個人や団体、企業の方からの寄付もこの「ゴージャス理枝」という名前のお陰で得ることができました。



### 食料支援について詳しく教えてください

食料支援は困った女性たちとつながる“きっかけ”にすぎません。2週間分程度の食料を支援することで食べ物の不安が減り、現状を話してくれるのです。最初は月に10世帯ぐらいの訪問でしたが、ピーク時には月に100世帯ぐらい訪問したこともありました。

現在は平均して月に40から50世帯ぐらいで、車で移動のできる本島内を、スタッフと2人で訪問し、これまで延べ約2,000世帯、8,000人を超える支援につながっています。



▲一緒に活動するスタッフのまつ毛美紀さん

訪問した際には30分ほどのヒアリングを行います。「支援を受けるために必要な情報が届いてない」ということに気づきます。訪問をきっかけに、必要な情報をピンポイントで伝えアドバイスをしたり、行政の対応が苦手な方には、一緒に付いて行くなど、悩んでいる女性が一步前に踏み出すきっかけになれるよう、できる限りのサポートをしています。

**無料!! ママさん達の食料支援します**

「女性を元気にする会」が、女性の困りごとを減らすために実施している活動です。シングルマザーや困っているママさん達に、無料で食料支援を行っています。1人で悩まず、まずはお気軽にお問合せ下さい。

**お受け取りの手順**

- ① LINEで登録し「希望」と入力
- ② 配達日時を調整
- ③ ご家庭に訪問して手渡し

「受け取った皆様の声」

ご支援いただいた方々のおかげで、食料が足りなくなっていたのが、本当に助かりました。子供も喜んで食べています。本当にありがとうございました。 (匿名希望)

お申し込みは、お電話でも大丈夫です。お気軽にお問い合わせください。 (匿名希望)

お申し込みは、お電話でも大丈夫です。お気軽にお問い合わせください。 (匿名希望)

▲2020年より始めている食料支援活動

### 食料支援は何度もリピートできますか

支援は基本的に1回だけです。この支援活動を立ち上げたコンセプトは、「女性の自立支援と負の連鎖を断ち切る」ことなので、何度も食料支援を求められる場合、何かしらの原因、理由や事情があります。特に生活保護を受けている方や障害年金などを受けていても生活が成り立っていない背後には、何らかの事情があることが多く、対象者からの話だけでなく、行政の担当者にも相談しています。

リピート支援は基本的には1回ですが、調停中の方や、ヤングケアラーなど複雑な事情

を抱える家庭には繰り返し支援を行い、つながりを保っています。

### 活動のモチベーションは

ヒアリングの30分ほどで、女性の表情から緊張がとれ、安心した笑顔に変わります。わずかな時間ですが、助けを求める女性にとっては人生を変える大切な時間です。

「・・・高校卒業の資格が欲しい」そう言って育児とアルバイトの傍ら、定時制高校へ入学し20代で高校卒業の資格を取得したお母さんもいました。こういう実際にポジティブな行動に変わって、前向きに進み始めた女性達を目の当たりにしたとき、「本当にやってよかった」と、とても感慨深い気持ちになります。

### 子どもの貧困を救うにはなにが一番必要ですか

大人からの安心感という愛情だと思います。貧しい家庭でも、安心感のある家庭であれば精神面での貧困は避けられる。親からの安心感が得られなかったとしても、まわりの大人から受ける事ができれば変わると思います。

児童養護施設で過ごす子どもたちの中には、自らの夢を語り、明るく成長している子もいれば、両親と暮らしながらも安心感を得られず、自己肯定感が低い「死にたい」などというメッセージを送ってくる子もいます。そういったメッセージに対して「あなたがいなくなったら私が一番困る。一番泣く。だからやめて」と、愛を込めてストレートに本気で訴えると、私の事を思ってくれるのか、少しずつ死への思いを止めてくれます。

こういった経験から、第三者でもいい、大人からの愛情が精神面での安定となり、自己肯定感が高くなり自分を大切にします。それが、ゆくゆくは金銭面の安定につながるのではないかと強く感じます。

## 新たな取り組みについて

現在、「安心して過ごせる女性のためのシェルター」の開設に向けて取り組んでいます。

利用する全ての方が安心して過ごせるために、ある程度の条件は設けますが、母子生活支援施設よりも手前、緊急時の一時避難場所。スピーディーに対応し、行政や専門家としっかり連携して対象の女性が前に進むための必要な情報の提供ができる「シェルター」というイメージです。

全国的にもこうしたシェルターは珍しく、これまでの活動を通じて早急に必要な施設だと実感しています。民間団体だからこそスピーディーに対応できるメリットを活かしつつ、行政、企業と連携し、それぞれの得意分野で女性の生活を守る。それに向けて準備を始めています。

## 是非、伝えたいことは

まずは、沖縄の貧困の現状・現実を知って欲しいと思います。2015年頃から「子どもの貧困問題」は続いています。しかし「そんな子どもが本当にいるのか」と思っている人が大勢います。理由は様々ですが、一目でみてわかる事ではありません。しかし、実際にその状況にある子どもたちは沢山いる。

そこで、子どもの貧困を伝える大人向けの講演を引き受け、最近では県立高校から依頼され、在校生向けの講演も行いました。困っている人がいれば、できることを出来る範囲でやれば良い。将来、社会に出て困った時にSOSを発信できたら、駆けつけてくる私のような大人がいる。そして、「明日食べる物が無い」、朝一に「今日、どうやって生きよう……」と考える人がいるという事を知ってほしい。私達のような団体を知らずに苦しんでいる人がいたら、情報だけでも伝えてほしい。というような内容で話しをします。

大人向けの講演会では、家庭で消費しきれな

い缶詰やレトルト食品などがあれば、食料支援につなげてほしい。という内容も伝えます。

大人でも学生でも、一人ひとりができることを行動に移せば、沖縄の共感の輪「ゆいまーる」になるのではないかと伝えてたいです。

### 【支援したい方】

LINEにていつでも受け付けております。



沖縄県内で毎日の食事に困っているご家庭に、皆様からいただいた食料をお届けする食料支援を行っております。皆様のご協力が必要です。どうか皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

### ○受け付けている支援品

食料のほか、日用品も受け付けております。

レトルト食品、缶詰

未開封の物で賞味期限が3ヶ月以上ある物  
消耗品（ミルク、紙おむつ、生理用品、  
トイレットペーパーやティッシュペーパー等）

### ○支援品を届ける場所

郵便番号 〒902-0066

住所 沖縄県那覇市大道21番地 1階

代表 ゴージャス理枝（赤嶺理枝）



▲宅食支援配達をするゴージャス理枝さん

# けいざい 風水



## 心理的安全性の確保

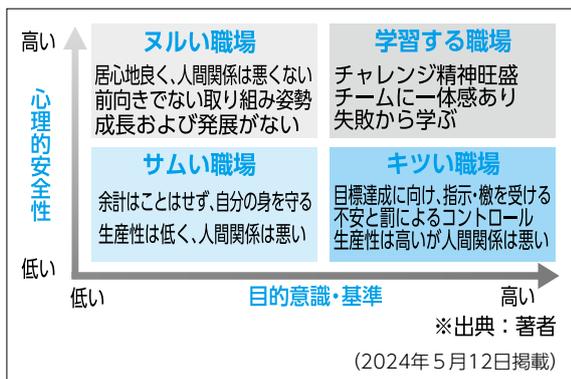
多様な意見 組織を活性化

沖縄銀行 大道支店兼松城支店・支店長  
青木 淳

心理的安全性とは組織行動学の研究者が1999年に提唱した心理学用語で、職場内で自分の考えや気持ちを誰に対してでも率直に安心して言い合える状態のことを言います。心理的安全性が高い職場は安心して仕事に集中できる環境が自然に醸成されていきます。またメンバーのエンゲージメント（仕事に対してのポジティブで充実した心理状態）が高まり、パフォーマンスが向上、業務効率や業績などあらゆる面で成果が期待できます。

ダイバーシティ経営が重要視されている現在、多様な角度からの意見や助言により組織が活発化され、新たな価値を生み出していくことが必要とされています。職場は勤務年数や年齢、考え方などが違うメンバーが集まる組織です。その中でリーダーが質問や相談しやすい雰囲気を作り出すことが肝要であり、状況に応じてその場の雰囲気を和ませるための工夫も必要です。相手を尊重しながら、自分の率直な意見や気持ちを伝えることが、心理的安全性の高い職場環境づくりへつながります。

心理的安全性のある職場はメンバー一人一人が考えを主張できる環境が整っているため、意見の対立が起こることがあります。その場合、目的意識や基準を明確にすることでより良いアイデアが生まれ、意見対立を乗り越え互いが成長できる「学習する職場」へ発展すると考えられます。また、予想を上回る実績や目標達成までの過程が効率良く進められるなど期待が持てます。皆さまもぜひ、ご自身の職場の心理的安全性を意識してみてくださいはいかがでしょうか。



## うるま市の1人当たりの所得

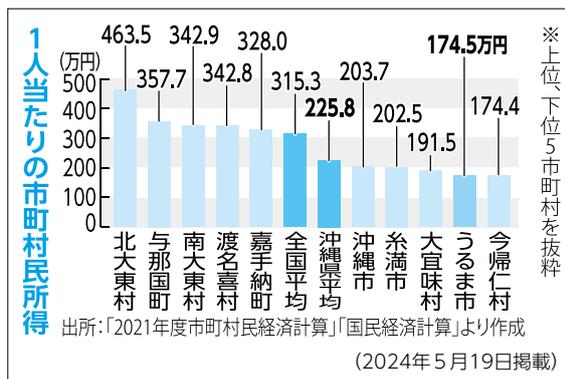
県全体で労働生産性の向上を

沖縄銀行 安慶名支店長  
赤嶺 正明

先月、最新となる2021年度の市町村経済計算が公表されました。市町村経済計算では市町村内総生産や1人当たりの市町村所得などが公開されており、市町村ごとの経済規模や構造、所得水準などを確認することができます。うるま市は那覇市、沖縄市に次ぐ人口を抱えていることもあり、市町村内総生産と市町村所得は県内でも4番目の高さです。県内では規模が大きく、市内総生産、市民所得ともに前年度よりも増加しているため、市の経済は成長していると言えるでしょう。

一方で、1人当たりの数値を見ると少し印象が変わるかもしれません。就業者1人当たりの市町村内総生産を見ると、うるま市は12番目の高さになります。さらに、1人当たりの市町村所得は県内全市町村の中で下から2番目の低さとなります。1人当たりの市町村所得は、雇用者報酬、財産所得および企業所得の合計である「市町村所得」を、その年の各市町村人口で割った数値となるため、個人の給与や実収入など所得水準を表すものではありませんが、うるま市においては就業者比率が低いことなどが要因として挙げられることもあります。

このような所得の低さはうるま市に限らず、全国と比較した際の沖縄県の課題でもあります。所得の向上を実現するためには、労働生産性を向上させる必要があります。労働生産性向上については沖縄県がさまざまな施策を行っていますが、県だけでなく市町村や県内企業も当事者意識を持ち、一体となって向上に向けて取り組む必要があるでしょう。





## 親の通帳・口座の手続き

家族を含めて早めの対策

沖縄銀行 末吉支店長  
新垣 おさ乃

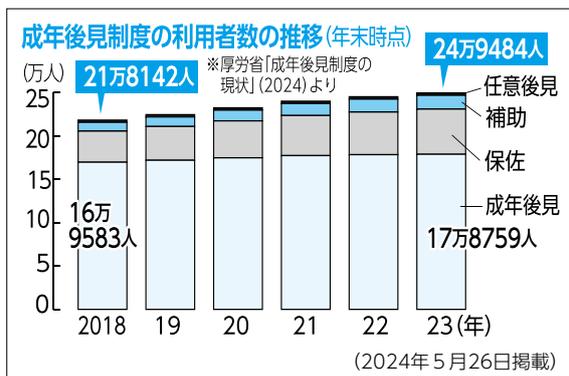
日々のお客さま対応で、最近増えている相談が「親の通帳・口座の手続き」です。通帳や口座に関する手続きでは、ご家族であっても口座名義人であるご本人の意思確認などが必要となります。入院や施設入居、認知症など状況はさまざまですが、ご家族だけでは銀行としても即対応できないのが実情です。

このような状況に備えて、預金をはじめとする財産の管理方法をご紹介します。

代表的な制度が「成年後見制度」です。ご本人の判断能力が不十分になった後に家庭裁判所に申立てを行う「法定後見制度（後見・保佐・補助の三つに類型されます）」と、ご本人の判断能力が十分なうちに、あらかじめ誰に・何を委任するのか決めて公正証書を締結、その後ご本人の判断能力が不十分になった際に家庭裁判所に申立てを行う「任意後見制度」があります。成年後見制度の利用目的は「預貯金等の管理・解約」が最も多く、次が「身上保護」であり、本人の権利や財産保全を最優先したい場合、成年後見制度は有効であり利用者数も増加傾向にあります。

ご本人が元気なうちから、信頼できる家族に財産の管理・運用を任せるのが「家族信託制度」です。

社会福祉協議会の「日常生活自立支援事業」は、足腰が衰え銀行に行くなどの日常的な財産管理が難しくなった方などが利用できます。認知症や身体の衰えだけでなく、高齢者を狙った詐欺などトラブルに巻き込まれるリスクも高くなるため、ご本人そしてご家族を含めての早めの対策が大切です。



## 高校のない離島教育支援について

家計に負担、県が寮設立

沖縄銀行 営業推進部 上席調査役  
川満 千美

沖縄県には島内に高校がない島が数多くあり、そして、それらの島には26校の中学校があります。中学校を卒業する生徒たちは高校進学と同時に住み慣れた島、そして親元を離れ、新生活を始めることとなります。

多くの学生たちはアパートを借り、自炊をしながら高校生活を送っています。しかし、単身やきょうだいでだけの暮らしは生活環境が不安定となり、学習時間の減少や進学先の変更につながりかねません。さらに、支出の中でも大きな割合を占めるアパートの家賃は、昨今の物価上昇、建築資材の高騰などの影響で上昇傾向にあります。おきぎん賃料動向ネットワーク調査(2022年)によると、新築1R~1LDKの1ヶ月の家賃相場は約5万6,400円、年間約67万円であり、家計への負担が大きいことが予想されます。そのため、親の経済的な負担を減らそうとアルバイトを行う学生も少なくありません。

そこで、沖縄県は2016年に高校がない離島出身者の経済的支援を目的とした学生寮「沖縄県立離島児童生徒支援センター(郡星寮)」を設立しています。郡星寮は寮費も朝夕の食事込みで3万7,300円であり、生活環境の安定、学習環境の整備、舎監ら職員が24時間2名以上勤務しており、支援の充実した施設となっています。教育の質の向上、貧困問題の解決のためにも、離島出身者だけでなく、諸事情で学習環境を確保することが厳しい学生までを対象とした支援の輪が今後も広がることを願います。

